

令和2年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立安方中学校

1. 昨年度の「改善プラン」の検証

(1) 【成果】

自己評価シートを用いて毎時間の内容、目標を確認しながら見通しをもった制作をすることができる生徒は主体的に制作に取り組む意識が芽生えた。

(2) 【課題】

制作の進度に遅れが生じている生徒のほとんどが発想構想に時間がかかっているため、実作時間が圧迫されている。

2. 授業改善のポイント

※改善内容に観点【関】【発】【創】【鑑】を記入。

絵画・造形等の創造活動に重点を置き、技能に偏重しない鑑賞と創造の喜びを味わわせ、豊かな情操を養う。

1 学年

- ・授業のルールや道具の準備、記名、片付け、制作の手順などの基本を理解させる。【関】
- ・自己評価シートを用いて見通しをもって制作する習慣をつけることで、発想構想のから実作業に入るための段取りを考え、自ら資料を準備するなどアイデア創出のための流れを身につける。【発】
- ・絵具、彫刻刀などの道具の使い方の基本を身につけさせる。【創】
- ・感動伝票などの相互鑑賞の取り組みで鑑賞の能力を高めていく。【鑑】

2 学年

- ・既習の内容を活かして作品作りに取り組むことで表現の幅を広げられるように指導する。【関】
- ・自己評価シートを用いて見通しをもって作業に取り組み、資料を自ら準備するなどして、豊かに発想して形にしていくことを促す。【発】
- ・日本の美術と世界の美術の違い、共通点を諸作品の鑑賞で感じ取り、広い視野で作品制作に活かしていく。また、感動伝票などの相互鑑賞の取り組みで鑑賞の能力を高めていく。【鑑】

3 学年

- ・既習の技法や表現を自ら選択し組み合わせることで個性ある表現ができるようにする。【関】
- ・自画像制作を通してより自分自身に迫るとともに美術の表現の多様性に目を向け自分らしい表現について深く考える。【発】
- ・モダンテクニックを用いてそれぞれの効果の面白さに気づくとともに、各表現の特徴を踏まえ自らの制作に生かす【創】
- ・感動伝票などの相互鑑賞の取り組みで鑑賞の能力を高めていく。【鑑】

感動伝票：生徒の相互鑑賞の際に「良さ」に着目して鑑賞し、その作品の作者に感想を伝えるためのカード。

自己評価シート：毎時間の授業での進行状況を記録し、次回の作業予定や目標を立てて、見通しを持って表現活動に取り組む。反省や感想を書き込むことで、授業の振り返りをする。